



←詳しくは

第1回さんかく塾 男女共同参画キホンのキ ～男女共同参画って何？～

6月16日(日)



知るポイント

日本の男女共同参画の遅れは、高度経済成長期の成功体験がかかわっている。

第1回は、基本について1から学ぼうと、滋賀県男女共同参画審議会会長である京都産業大学教授の伊藤公雄先生を講師にお迎えし、「男女共同参画の基本」についてお話しいただきました。これまでの男女共同参画の歩みと歴史を日本と世界を比較しながらたどることで多面的に説明していただきました。

日本が男女共同参画を進めるためのターニングポイントはいくつかあり、そのうちの一つの1970年代、世界では、女性の人権への対応や、女性労働参加の拡大により女性活躍が進んでいったが、日本は高度経済成長期に男性の年収が急増し、男性の労働による経済の安定成長という成功体験を積んでしまったがために日本の男女共同参画は世界と比べ30年ほど遅れることとなってしまったことを教えていただきました。

第2回さんかく塾 地域女性史をひもとく ～その時女性は何を思ったか～

8月3日(土)



滋賀県立大学教授の京楽真帆子先生の女性史史料の当センターへのご寄贈を受け、史料目録贈呈式ならびに感謝状贈呈式を行いました。寄贈史料は、京楽先生がこれまで収集されてきた戦前・戦中の「婦人国防」を中心とした近代の女性史を研究する上で貴重な史料150点で、当センターにて閲覧可能となっており、女性史研究等でご活用いただけます。

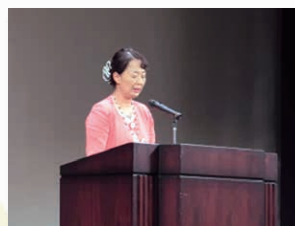
寄贈に伴う基調講演では、史料を基に女性誌の読み解き方や戦時下での女性の思いや考えについてお話しいただきました。国防婦人会の活動を、機関誌「婦人国防」から読み解き、戦争に利用されていた国防婦人会の活動も、史料からひもといていくと、直向きに日々の生活を行い、自己実現を果たそうとしていたということがわかり、女性が地域を支えるために奔走していたことがうかがえました。

その後、女性史研究家の早田リツ子さんを交えての鼎談では、女性史を学ぶ意義について意見が交わられました。「未来を考える上での答えは過去にある」と女性史を学ぶことがこれからの社会について考える上で大いに参考となることを示していただきました。

男女共同参画は進んだかというというテーマに移ると、半分進んで半分進んでいないとの意見が出されました。状況として変わっていない部分もあるが、進んできたという根拠としてジェンダー平等という言葉が当たり前使えるようになってきたことがその証と示されました。

知るポイント

これまでの女性の努力や活躍を知ることこそ、未来の男女共同参画社会に向けての答えがある。



公開講座

防災・まちづくり『熊本地震を体験して』
～必要なのは備えとつながる力～

6月7日(金)



知るポイント

平時から、男女、子ども、高齢者等様々な視点から防災について考えておく必要がある。

熊本県民交流館パレアより藤井宥貴子館長にご講演いただきました。藤井館長は熊本市男女共同参画センターはあもにい館長であった際、熊本地震に遭い、その後の避難所運営を経験された当時の経験から、今、備えておくこと、考えておくことについてお話しいただきました。

一番は、自分の命は自分で守ること。そのために、「まさかの発災はない」と考え、備えを怠らないこと、そして、備えの具体的な内容を教えていただきました。

藤井館長が、熊本地震を体験し、避難所運営の中で感じ、考えられたことは次の3つでした。

- ① 多様な視点で考え、決定していくこと
- ② 避難所運営は住民主体で行うことが望ましいこと
- ③ 平時につながりを作っておくこと



非常時こそ、様々な立場の者の考えが反映される必要があり、避難所を使う者の意思を反映することが大切であるとのことでした。避難所運営では、支援者である行政職員も疲弊します。支援者が倒れれば、被支援者も倒れてしまいます。それを防ぐという意味だけでなく、能動的な動きがより良い避難所運営を可能にするそうです。そして、平時に作っておいたネットワークによって、非常時に助けられ、その経験を次に生かして減災につなげてほしいと強く訴えられました。

第3回さんかく塾
男性の生きづらさに寄り添う
～だれもが生きやすい社会に～

9月8日(日)

立命館大学の中村正教授をお招きしご講演いただきました。講演では、臨床の現場におけるエピソードを交えながら、男女間で男性が暴力や犯罪を起こしてしまう理由についてお話しいただきました。男らしさ規範（主観的なもの）の中で、「性的な奔放さ」「女性支配の意識や態度」「助けを求めない行動」が犯罪と強い相関関係があり、この男性性ジェンダーがDVや虐待とつながりやすくなっていることを学びました。この問題を解決していくためには男性に対する支援が必要であり、他者への相談や自らのジェンダーに対する規範を学び直す場が必要となることを訴えられました。



知るポイント

ジェンダーの問題は、女性はもちろん、男性にも生きづらさを感じさせている。



イラスト タカノキョウコ

このかえるは
何のキャラクターでしょう？
答えはこちら→